

医学研究実施のお知らせ

腎・透析科では、以下の研究を実施しております。

研究の対象となる方（または代理人の方）で、この研究計画について詳しくお知りになりたい場合、この研究に情報を利用することをご了解できない場合は、【問い合わせ先】へご照会ください。

ご連絡をいただかなかった場合、ご了承いただいたものとさせていただきます。

研究の成果は、患者さんの氏名等の個人情報が明らかにならないようにしたうえで、学会発表や学術雑誌等で公表します。なお研究データを統計データとしてまとめたものについてはお問合せがあれば開示いたしますので、【問い合わせ先】までご連絡ください。

【研究課題名】

「血液透析導入時における血清可溶性（プロ）レニン受容体濃度の特性についての検討」

【研究責任者】

甘利佳史

【研究の概要】

（１）研究の背景

（プロ）レニン受容体[(P)RR]は、脳・心・腎などの重要臓器の細胞膜や形質膜に存在すると言われていています。レニンの前駆体であるプロレニンはレニン活性を持たないが、(P)RRに結合すると立体構造が変化しアンジオテンシノーゲンが作用する酵素活性中心が外部に向かつて露出するようになるため、レニン活性を有するようになります。このため、(P)RRは組織レニン・アンジオテンシン系(RAS)において重要な役割を担っていると考えられています。さらに、プロレニンやレニンが(P)RRに結合すると、アンジオテンシン II 産生系とは別に、アンジオテンシン II 非依存性に細胞内シグナル(ERK1/2、p38 など)を介して細胞増殖や線維化を引き起こすとされます。さて、(P)RR は膜貫通領域や細胞内領域を含む Atp6ap2 部分と、細胞外領域の一部を含むレニン/プロレニン結合領域等からなるが、furin 等による切断を受け、後者が可溶性(P)RR [s(P)RR]として、細胞外へ分泌されることが報告され、血中 s(P)RR 濃度の測定が可能となりました。血清 s(P)RR 濃度は組織 RAS を反映するマーカーとして有用である可能性が示唆されています。一方、血液透析(HD)患者さんは心血管合併症の発症率が高く、そのため、予後が不良であります。その原因の一つとして組織 RAS の変化が関与している可能性が考えられますが、HD 患者さんにおける、血中 s(P)RR 濃度の特徴については、明らかではありません。

(2) 研究の目的

HD 導入時における血清 s(P)RR 濃度を測定し、各種患者背景因子との関連を調べるとともに、その値が HD を継続することでどのように変化し、HD 患者さんの心血管系疾患の発症や生命予後に関与するかについて比較検討することを目的とします。

(3) 研究期間

研究許可日～2028 年 12 月 31 日

この研究は、守口敬仁会病院倫理審査委員会の承認を受け、守口敬仁会病院病院長の許可を受けて実施するものです（承認番号：3101）。

(4) 研究の対象

当院で HD を導入した慢性腎不全患者さんを対象とします。

(5) 研究の内容と方法

各患者さんの初回 HD 時の採血で s(P)RR 濃度を測定し、同時期の各種患者背景因子との関連を調べます。その後、当院サテライトクリニック（門真けいじん会クリニック、寝屋川けいじん会クリニック、守口けいじん会クリニック）に通院することとなった維持血液透析患者さんに対しては、HD 導入後、半年目に再度、血清 s(P)RR 濃度を測定し、導入期と比較します。最後に、HD 導入期の血清 s(P)RR 濃度と、その後の心血管疾患の発症および、生命予後への関連の有無を評価していきます。

(6) 研究に用いる試料・情報の種類

・試料：無し

・情報：①患者基本情報として、年齢、性別、身長、体重、血圧、脈拍、喫煙歴、心血管イベントの既往歴など（この際、生年月日、カルテ番号、住所、氏名などの個人を特定するような情報は研究に用いません）、②疾患情報として、透析に至った原疾患、病歴、使用薬剤など、③検査情報として血液データや X 線検査（心胸比）、CT 検査（内臓脂肪量）、超音波検査（心臓、頸動脈）などの結果・所見など

収集した情報は、解析する前に氏名・患者 ID などの個人情報を削り、新たな符号（番号）をつけ、どなたのものかわからないようにします（このことを匿名化といいます）。研究成果を学会や論文で発表する際も、個人が特定できる情報は利用いたしません。

【問い合わせ先（対応時間：平日 09：00 ～ 17：00）】

社会医療法人 彩樹 守口敬仁会病院

06-6906-9000

研究責任者 腎・透析科 部長 甘利佳史